

武庫川流域圏ネットワーク主催講演会（5月19日）

武庫川流域圏ネットワーク 第8回総会 記念講演会

講演後、総会開催

「福島第1原発事故から7年～再生可能エネルギーの展望とソーラーシェアリング（営農型発電）への期待～」

神戸女学院大学名誉教授、元学長 川合真一郎氏

- ・ひょうご環境創造協会
- ・コープこうべ環境基金 助成事業
- ・環境学習都市にしのみや
パートナーシッププログラム
- ・環境都市宝塚 推進市民会議 後援

日時：2018年5月19日（土）13:30～15:00

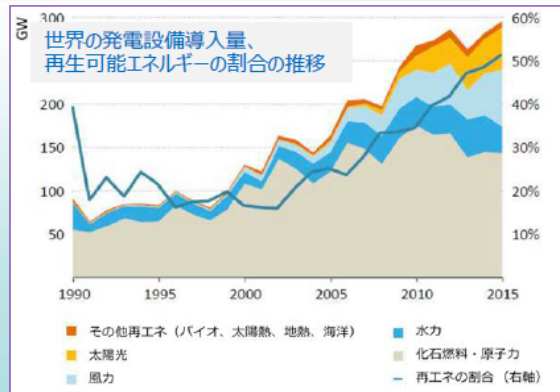
会場：神戸女学院大学 エミリー・ブラウン館（阪急門戸厄神駅 徒歩20分）

参加自由（無料）当日参加も歓迎
問い合わせ：武庫川流域圏ネットワーク
代表 山本：Tel 0798-31-1544

講演について

東日本大震災・福島第1原発事故から7年が経過した。事故直後、脱原発を指向する声が日本全国を覆ったかに見えたが、次々と再稼働が進みつつある。世界的にみると、先進国では原発の新規増設は少なく、太陽光や風力による再生可能エネルギーによる発電の進展が目覚ましい。

さらに、近年はソーラーシェアリング(営農型発電)が注目されており、耕作放棄地の活用や地域の活性化、電力の地産地消に寄与すると期待されている。



1. 再生可能エネルギーが注目される背景

1) 地球温暖化

化石燃料からのCO₂排出

2) 原発が抱える諸問題

使用済み放射性廃棄物の処理と処分場

原発事故に対する不安

3) 東京電力福島第一原発事故

事故の責任、避難者の辛苦、子どもの甲状腺がんの増加、汚染水の処理、廃炉作業のコストと期間

ソーラーシェアリングの展望

1. 耕作放棄地の有効活用

農業地域の活性化

市民農園の活用

2. エネルギーの地産地消

自分の電気は自分でつくる、

地域の電気は地域でつくる

3. 再生可能エネルギーの普及

4. メガソーラーによる環境破壊の解消

5. 地域の大学との連携

大学の地域貢献、大学の活性化

SDGs(持続可能な発展の目標)

6. 再生可能エネルギーと水素社会の推進

